松林と日本社会

小川 真さんに聞く

森林の異変に鈍感が怖い

枯れても植える心を

キノコと仲のよい木が次々枯れるのは不気味

海岸沿いに青々と広がる松林。古来、詩歌に詠まれ絵画にも描かれて、日本の原風景として人々の心に刻まれてきた。その松林がいま惨たんたる状況にある。マツ枯れは止めどなく広がり、立ち枯れだらけの寒々した松林も珍しくない。菌類学者、つまりキノコ研究者である小川真さんは、白砂青松の風景を取り戻そうと、各地を訪れては松林再生活動を鼓舞している。

「マツ枯れは海岸に生えるクロマツだと青森県あたりまで北上しています。山に生えるアカマツは標高の高いところは逃れても、それ以外は全滅に近い。林が残っているのは景勝地など丹念に手入れしているところぐらいです。薬剤散布で媒介する虫を殺すのが一時、盛んに行われました。でもこれは完全に失敗。マツ枯れは止まっていません」

「最近、気になっているのは銘木と言われてきた老齢のマツが次々と枯れていることです。手入れしをしているのに樹齢300年とか400年のマツが枯れる。マツ枯れの原因とされるマダラカミキリとかザイセンチュウがいないのに枯れてしまう。調べてみると根が腐って衰弱死しているのです」

「もっと不気味だと思っているのはマツだけでなく、キノコと仲のよい山の樹木が次々と枯れていることです。ナラとかシイ、カラマツなどが枯れていく。紅葉の時期でもない夏に茶色になって枯れてしまう。よく見るとあちこちの山が点々と赤茶けています。枯れる理由はよく分かりません。でも根がやはり腐ってしまっている。この現象はどうも世界中で起きているようなのです」

「日本ではマツ枯れをもはや気にしないし、山々の木々が異様に枯れても関心が薄い。人々の自然に対する感受性が非常に鈍くなっています。車社会だから、よそ見をしていると危ないと、周りの景色を見回すことがなくなっているのかもしれません。絶滅危惧種がなくなるのならともかく、ありふれた木々が枯れる。自然の異変に鈍感なのは危ういと思いますよ」

森林は人々の生活のありようを映し出す

マツは東アジアでは朝鮮半島から山東半島にかけてが天然分布域。国内の松林はほとんどが人手によるという。特に海岸沿いの松林は江戸時代以降に農耕地を拡大しようと防砂、防潮林として本格的に植林された。

「マツはやせた土地を好む。雨量が少なくて乾燥し、ほかの植物が繁茂できないような限界ぎりぎりのところがいい。日本のように雨量が多いと、放置したらほかの植物が出てきてしまうので、育てるには人が土地をやせさせるしかない。かつては下草を刈り、枯れ木を薪炭として利用していたので条件は整っていた。しかし、それもなくなり、見るに忍びない状況です」

木を植えれば将来世代とも心がつながる

小川さんは国内約20カ所の松林再生活動を支援している。マツと相性のよいキノコの菌を苗木に植えつけ、炭を周辺に埋めて根付かせる方法を伝授する。中国、オーストラリア、インドネシアなど海外でも同じような方法で森林再生を教えている。取材した日も仙台近郊の名取市の市民グループを指導、「枯れても枯れても苗木を植え続けることが大事」と熱弁をふるった。

「樹木は肥料と水をやれば育つと信じている人が多い。インテリほどそう思い込んでいる。だからマツの苗木も根元に肥料をやって植えたりする。だが、マツはやせた土地にしか根付かないから、すぐに枯れてしまう。常識を正すには大変な労力がいります」

「大事なのは共生関係にあるキノコ。マツの苗木はキノコの菌を植えつけないと大抵、根がつかない。だから海岸沿いの松林の再生ではショウロの菌をつけています。松林の手入れも楽しみがないと続かない。ショウロは高価なキノコだから、うまくいくとキノコ採りもできますよと言って活動を励ましています」

最近は定年退職した高齢者が故郷に戻り、子供のころになじんだ山や林の変わりように危機感を持ち、松林の再生に取り組む例が増えている。

「松林の変わりようなど、環境の変化は過去を知る高齢者にしか分からない。子供はいまの姿しか知らず、異変には気づかない。環境を守るにはかつてを知る世代が子供たちに昔の姿を伝えていくことが重要なのです」

「木を植えれば心が豊かになり、人の輪も広がります。林は将来も残るから、将来の人々ともつながる。目先の経済的な価値にとらわれると環境や森林を守る視点を見失います。仏教には『小欲知足』という教えがある。欲が少なければ満足度は上がる。そんな気持ちになれば自然を見る目も違ってくると思います」

（編集委員　清水正巳）

おがわ・まこと　菌類学者。1937年京都府生まれ。66年京大大学院博士課程修了。農林省に入り、森林総合研究所きのこ科長などを経て、2004年から大阪工業大学客員教授。白砂青松再生の会会長として松林の再生活動を繰り広げる。著書は『森とカビ・キノコ』『炭と菌根でよみがえる松』など。

■ シニア記者がつくるこころのページ ■　（毎週土曜に掲載）